

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成26年度 技術情報第6号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

トビイロウンカの発生状況等については以下のとおりで、今後の発生状況に注意し、適切な防除指導をお願いします。

平成26年度 技術情報第6号

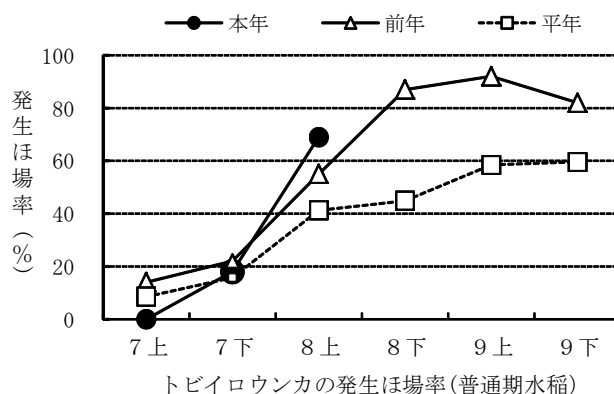
1 発生状況等

(1) 8月4～6日に行った巡回調査(調査ほ場数62ほ場)での発生ほ場率は69%(平年41%)と平年に比べやや高かったが(右のグラフ及び表1), 発生程度はすべて少発生であった。

(2) 今回の調査で認められた虫態は, そのほとんどが中齢幼虫で, 7月13～14日飛来虫に由来する第1世代幼虫と推察され, 8月2～7日にこの第1世代幼虫の防除を行っていない場合は, 今後, 第2世代の増殖が予想される。

また, 今回の調査で認められた成虫は, 6月27日及び7月3日飛来虫に由来する第1世代成虫と推察され, 今後, 第2世代の増殖が予想される。

なお, 調査した62ほ場の内, 成虫が確認されたのが8ほ場(13%)で, その内, 短翅型雌成虫が認められたのは3ほ場(5%)であった。



2 防除の考え方

(1) 6月27日及び7月3日飛来虫の第2世代幼虫の防除適期は8月18～23日頃, 7月13～14日飛来虫の第2世代幼虫の防除適期は9月1～6日頃と予想される(参考資料の発生経過予測図を参照)。

3 防除上注意すべき事項

(1) トビイロウンカは増殖率が非常に高く, 8月下旬以降には高密度となり坪枯れ被害を生じる恐れがある。残暑型の年にはしばしば, 稲作後期まで増殖率が高く, 被害が多発する傾向があるので注意する。

(2) 本種は稲の株元に生息するので, 粉剤や液剤で防除する場合は, 薬剤が株元に十分届くように散布する。

(3) ほ場では各虫態が混在しているので, 防除を実施したあとも, その後の発生に十分注意する。また, ほ場内の分布にはムラがあるので, ほ場全体の発生状況を確認する。

(4) 薬剤散布にあたっては, 農薬の使用基準を遵守し, 薬剤の飛散に十分注意する。

(参考資料)

トビイロウンカの有効積算温度による発生経過予測図 (鹿児島地方気象台：加世田のデータを使用)

鹿児島県病害虫防除所 2014年8月7日 作成

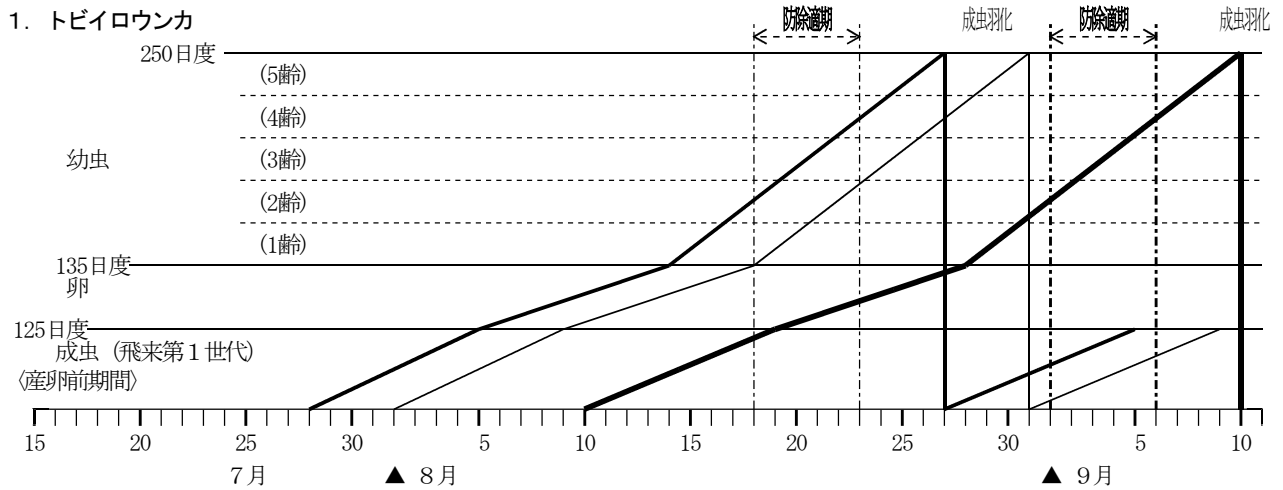


表1 トビイロウンカの発生状況 (調査日：8月4～6日)

| 地域名 | 発生ほ場率 (%) | | 調査ほ場数 |
|--------|-----------|----|-------|
| | 本年 | 平年 | |
| 南 薩 | 40 | 45 | 10 |
| 北薩平坦 | 67 | 44 | 24 |
| 北薩山間 | 64 | 41 | 22 |
| 大 隅 | 100 | 33 | 6 |
| 県計(平均) | 69 | 41 | 62 |

※ 平年は2006年～2013年の平均値。

※ 巡回調査地点

南 薩：南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目
日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里

北薩平坦：鹿児島市東佐多町，始良市三拾町・蒲生町楠田
霧島市隼人町住吉・国分上小川，薩摩川内市宮崎町・高江町
出水市野田町屋地・高尾野町東干拓，出水市六月田
薩摩川内市入来町浦之名，阿久根市鶴川内

北薩山間：さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手
伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・大田・山野，湧水町北方

大 隅：曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里